



討議資料

県議会報告

2019年4月

平成31年度予算について

山口県議会2月定例会は、2月19日から3月8日まで行われました。今回は、平成31年度一般会計予算（約6、854億円）、職員給与や各種手数料の改正条例など63件の議案が審議されました。私は、

2月27日に一般質問を行いました。その背景や問題点、県当局とのやりとりなどをわかりやすくご説明します。詳細は、井原すがこのホームページや県政報告ブログをご覧ください。

背景や問題点

今年2月の山口県の人口は約136万人（昨年は約3、400人の転出超過）となり、人口減少に歯止めがかかりません。毎年、多額の財源不足を何とか穴埋めしながら予算編成が行われるという厳しい財政状況の中で予算の無駄遣いは許さ

れません。そこで、平成31年度一般会計予算案について、財政の健全化という視点から質問しました。

県債残高の削減

昨年、今年と一般分の県債発行額が増加し、県債残高が1兆2千億円を超える危険水域にあります。毎

質問

年の新規県債発行額を元本返済額以内に抑えるなど、明確な数値目標を定めて計画的に削減すべきです。

答弁

数値目標を定める考えは



議の誕生！

2011年4月 初当選の瞬間

お断り

2期8年の任期中、毎議会で一般質問を行い、議会終了後速やかにその結果を「県議会報告」にまとめてお知らせしてきました。今回は配布時期が県議選と重複したため、お手元にお届けするのが遅くなりました。

再編交付金の使途

毎年多数の事業が実施されていますが、必要性など疑問のあるものもみられます。にぎわい創出拠点整備、錦帯橋空港団地利用への助

質問

先日、錦川清流線の「清流みはらし駅」が開業しましたが、果たして利用者の増加につながるのでしょうか。「再編交付金の使い方について議員はきちんとチェックしたのか」というお

叱りを受けることがあります。事業のなかには必要性の乏しいものも見受けられますので、本来の目的である基地被害の防止のための事業に限定すべきです。



のコメント

答弁

「にぎわい創出拠点整備」として和木町の蜂ヶ峯総合公園における交流施設の整備、錦帯橋空港利用促進のため団体旅行の経費の助成、さらに、県立武道館の建設に向けた調査、県指定区域におけるサッシ設置等の住宅環境改善への助成を行うものです。

成、武道館の建設、県指定区域の住宅環境改善への助成などについて、その目的や内容を説明して下さい。



米軍基地問題について

背景や問題

昨年3月の艦載機の移駐から1年が経過し、短期間の集中訓練による騒音により、私たちの日常生活の安全安心が脅かされるようになってきました。そこで、最近の騒音被害の状況と防止対策を質しました。

騒音被害

質問

艦載機移駐により1万人に達すると言われているが、現在の人員、愛宕山米軍住宅の入居状況、まちの上を飛ぶことがよくある飛行コースなどを教えて下さい。また、この1年間の騒音の実態と県の評価をお示し下さい。

答弁

国によると、「軍人、家族等は、適宜移動してきている」「愛宕山の居住者数は常に変動している」と米側から聞いている。「飛行経路は、米軍の運用に係る事項であり承知していない」とのことです。艦載機が岩国に掃蕩している期間の騒音は増加しているが、沖合移設前の状況と比べると、年間を通じ、比較可能な多くの地点で減少し

ています。

岩国日米協議会の確認事項

質問

基地の大幅な機能強化により飛行の実態は様変わりし、その運用ルールを定める確認事項が実態に合わなくなっているのに、岩国日米協議会が一向に開催されない理由が理解できません。早急に確認事項の見直しを行うべきです。

答弁

岩国市と米側で、岩国日米協議会の確認事項の見直しについて協議、検討が進められており、県としては、移駐後の地域の実情が反映されるよう適切に対応していきます。



のコメント

米軍関係者の人数や居住の実態、訓練内容、飛行コースなど

県、基地のことは承知せず

私の質問のうち、基地問題に関しては、空母艦載機移駐後騒音が増加し、米軍関係者の数も増加しているにも関わらず県にはほとんど情報がなく、いづれも

投票率低下の責任

任期満了に伴う改選を目前にした今議会は、来年度予算を審議する大切な議会でしたが、議員の間では、選挙に向けての後援会活動の話が飛びかかっていました。しかし、県内の15選挙区のうち選挙

議会TOPIC

があるのは10選挙区のみ、そのうち無風と言われる区もあり、さらなる投票率の低下が心配されます。若者の政治離れが顕著になっていますが、その責任は魅力ある選択肢を示すことができず、

ほとんど何もわからないという答弁でしたが、それでは、対策のとりようがありません。「言うべきことは言う」という知事の言葉が虚しく響きます。

「承知していない」という答弁に終始しました。

傍聴席

基地の拡張は岩国市が中心となり国と取り交わしたことで、交付金も直接岩国市に支払われているので、「基地の騒音問題については岩国市が中心となって対応すべき」との山口県への回答にはうんざりした。

自分たちが影響を受けないので他人事として。山口県は山口、宇部市方面に関しては素晴らしい道路を建設しているのに、東部は改善しようともしていない。知事は本当に県トップであろうかと疑いたくなる。

岩国の人は県議会があるときは傍聴に

岩国市民は 県民でもある

行くべきと思う。

岩国で「やかましい」とか「危険」と言っているも始まらない。今の沖繩と国との問題とまったく同じである。自分たちが幸せだから地域はどうなっても良いという考えであろう。山口県の中の岩国市であるから、同じように目を通すのが本当であろう。

また、井原さんが再質問から再々質問までしなければいけないのは、県の職員がいい加減な仕事をしているためと考えられ、その態度に疑問を持つ。

地域創生と口では言うが、本気で考えているのか。医療や学校が地域にいかにか大切であるか。また、人口減少対策にしても、学生が都市へ集中する現状をどうやって食いとめるか。子どもたちが成長して山口県を守ることを考えるような政策を立てるべきと思う。

(岩国市通津 男性)

井原すがこ
後援会事務所

郵便 740-0017
住所 岩国市今津町
4-11-20
コーポビル 1階
電話 0827-21-9808